第４回伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン懇談会　議事概要

開催日時	令和３年 12 月 28 日（火）10：00～11：40
開催場所	伊賀市役所５階　501 会議室
出席委員	久　　隆浩（近畿大学総合社会学部） 湯瀬　敏之（京都府山城広域振興局） 米田　学　（奈良県南部東部振興課） 奥田　詩織（社会福祉法人伊賀市社会福祉協議会） 髙本　昌平（南山城村社会福祉協議会） 岩佐　絹枝（伊賀市社会教育委員） 杉本　佳也（伊賀市消防団） 宮原　宏規（西日本旅客鉄道株式会社） 松永　享二（島ヶ原地域まちづくり協議会） 仲北　悦雄（笠置町推薦委員） 大仲　順子（南山城村推薦委員） 神保　弘治（山添村推進委員）
欠席委員	中嶋　中（三重県伊賀地域防災総合事務所） 奥谷　博文（社会福祉法人山添村社会福祉協議会） 稲垣　八尺（一般社団法人伊賀上野観光協会） 松井　克夫（笠置町商工会）
事務局	伊賀市企画振興部長　藤山　善之　　笠置町総務財政課　森本　貴代 伊賀市企画振興次長　風隼　徳彰　　南山城村企画政策課長　井上　浩樹 伊賀市総合政策課長　中矢　祐丈　　南山城村企画政策課　橋本　昌貴 伊賀市総合政策課　竹森　昭治　　山添村地域振興課長　井久保　幸雄 内田　達也　　山添村地域振興課　桝田　拓哉
議事日程	１．開会 ２．あいさつ ３．議事 （１）第２期共生ビジョン（最終案）について （２）ロゴマーク（案）について ４．その他
議事概要	**<u>１．開会</u>** （事務局） 定刻となりましたので、ただいまから第４回伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン懇談会を始めさせていただきます。 本日の議事に入りますまでの進行を努めさせていただきます　企画振興部の風隼で

	ございます。どうぞよろしくお願いします。 　本日の懇談会につきましては、原則公開とさせていただいておりますので、会議を傍聴されている方もおられます。また、本日の会議録につきましても公開させていただくこととなりますので、ご了解よろしくお願いいたします。 ★会議成立の確認 　会議の成立でございますが、委員の半数以上の出席をいただいておりますので、本日の会議は成立しております。 　なお、本日は、「中嶋委員」「奥谷委員」「稲垣委員」から欠席のご報告をいただいております。 ★資料の確認 　本日の資料でございますが、事項書の下に記載の資料を配布させていただいております。 　資料の過不足がございましたら、事務局へお声かけください。 　それでは、お手元の事項に沿って進めさせていただきます。 **２．あいさつ** （事務局） 　事項２でございますが、久会長からご挨拶いただきます。 （会長） 　おはようございます。年末の一番押し迫った時にご出席いただきありがとうございます。まず、皆さまにお詫びと感謝を申し上げたいと思います。８月 31 日に開催を予定しておりました懇談会ですが、新型コロナウイルスの感染拡大による京都府の緊急事態宣言、三重県のまん延防止等重点措置の適用を受け、やむを得ず事務局と相談させていただき書面開催にさせていただきました。対面の会議以上に皆さまにお手をわずらわせたと思います。感謝いたします。その際にたくさんの意見を中間案にいただき、それも反映しながら本日事務局の方で最終案を提示させていただきたいと思っています。行政におかれましては、この間パブリックコメントも実施しておりますので、皆さま方のご意見とパブリックコメント両方併せまして、修正させていただいておりますので、本日最終のご意見を賜れればと思います。どうぞよろしくお願いします。

	（事務局） ありがとうございました。 今年度、対面での会議が初めてとなります。委員の交代もありましたので簡単にご紹介させていただきます。 三重県伊賀地域総合防災事務所　中嶋様 西日本旅客鉄道　宮原様に交代いただいております。よろしくお願いします。 事務局も変わっておりますので簡単に自己紹介させていただきます。 ≪事務局自己紹介≫ この後は、伊賀・山城南・東大和定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱第６条第１項により、会長様により議事進行をお願いいたします。 **３．議事** **（１）第 2 期共生ビジョン（最終案）について** （会長） （１）第 2 期共生ビジョン（最終案）について。中間案については、委員の皆さん個々にご確認いただいていると思うので、主に中間案から修正した箇所について、事務局より説明をお願いする。 （事務局） ★資料１－１、１－２、参考資料の説明 （会長） ありがとうございます。第１期からご参画の皆さんには非常にコンパクトになったなという印象があろうかと思う。４市町村が連携することに非常に意味があること、効果があることをしっかりと書いていただくというようにお願いをしていたところ、そのあたりを受けていただきコンパクトにまとまったのかなと思っている。 ここから意見交換をさせていただく。ご質問、ご意見等があれば、お願いする。 （委員） 確認だが、２ページの６行目で「全国的にも珍しい圏域」が「全国的に類稀な圏域」と修正されていない。これは「類稀」に変更されるのか。 （事務局）

	併せて修正させていただく。 （委員） ビジョンの案をまとめていただき、まずは事務局にお礼申し上げる。３点質問がある。１つ目が 11 ページ。外来延患者数、入院延患者数、救急車搬送件数があり、救急車搬送に関しては健康相談ダイヤルから救急車の搬送に繋がれば良いとパブリックコメントでもあがっていたかと思う。参考資料１パブリックコメント意見一覧の１番で意見対応として、「今後もより暮らしやすい環境整備に取り組んでいきたい」とあるが、救急搬送自体に何か障害があるのかどうなのか。実態を見ると、山添村、南山城村から搬送の実績はあるということなので、引き続き広域的な救急搬送に努めていくという立ち位置なのか、たまたま搬送があったが実は非常に難しい問題があるのか、そのあたりを教えていただきたい。２つ目が 17 ページにデジタルトランスフォーメーションを推進するとあるが、デジタルトランスフォーメーションはそれぞれの団体でも苦労されていると思う。住民のサービスを向上するという意味では非常に良い表記ではあるが、具体的に何かこういうことをやっていけるということがあるのであれば、あるいは検討の仕組みをお考えなのであれば教えていただきたい。３つ目が公共交通の関係で 53 ページの公共交通ネットワークの構築。定住を促進するとなれば、ラストワンマイルまでどのように交通のサービスを提供するのかということは非常に重要な問題だと思う。それに関連して参考資料１の 10 番で南山城村の村タクシーを伊賀市へ拡大できないのかということの意見対応として、地域交通事業者の事業継続にも影響するということだが、乗車する方を一定限定するなり、行き先を限定するなり、乗降の場所を限定するなり、やり方があるかと思うのでぜひとも前向きに検討していただきたい。先ほどの DX にも関連するが、例えばそういうところにも何か ICT を活用することで円滑な地域づくりに繋がるとか、高齢者の移動手段の確保に繋がるというような工夫があれば良いなと思うので、その点もぜひともお願いしたい。 （事務局） １つ目の救急の関係で、11 ページはこの圏域が中心市にある機能をどれだけ活用しているか、人の流れがどれくらいあるかということを見ていくのにあげさせていただいているもの。若干笠置町から人の流れは少ないが、この圏域の中に中心市の都市機能を活用されて圏域の住民が暮らしているのだということを見ていただくための資料とご理解いただきたい。その上で、25、26 ページに具体的な、この圏域の中で医療の分野でどういったことを連携しながら取り組むのかということを考えていくにあた

	り、一次救急、二次救急、特に救急車の適正利用等も含めてだが、ダイヤル24を活用しながら、軽症の場合はダイヤル24を活用いただきすぐに二次救急にかからないような手立てもしていく必要があるということで、ダイヤル24を広く圏域住民の皆さんが使えるようにしているということや、あるいは伊賀市でも二次救急は輪番制で名張市と伊賀市の３つの病院が交代で救急の受入れをさせていただいており、そのあたりのことも伊賀市の広報だけではなく圏域町村の広報でも救急についての広報を定期的にしていただき、ダイヤル24や応急診療所を適正に使いながら二次救急についても適正な利用に努めていただくということを啓発する取り組みを進めている。引き続き次期ビジョンにおいてもそういった医療の分野での取り組みを進めたいと考えている。 　２点目のDXの関係。第２期共生ビジョンを作成するにあたり、新型コロナウイルスの影響もあり、共生ビジョンに基づく取り組み自体も大きく見直さないといけない部分も出てきた。今回そういったことも含めて見直しをしていこうということになっている。DXをビジョンの中にどう位置付けるかとなった時に、１つの手段としてはそういう分野を新たに起こすということも検討したが、部会や分野を絞ると全分野の中でデジタルを活用するという意識が、それはDXの部会の話だとなってしまうのもどうなのかということもあり、全部の分野でDXの考え方を取り入れなければならないということで、今回17ページの大きなテーマの「圏域でつながり、暮らしの安心を支える」の中に、全体を通した課題ということでDXを進めて行くということを入れさせていただいた上で、各分野を推進していく中で、各市町村で構成する各部会でもDXの考え方を取り入れて今後それぞれの取り組みを進めて行く時にそういったことを念頭に置きながら事業を進めて行くというようなことを確認させていただいているところです。具体的に文言として出てきているのは３つぐらいかと思うが、１つは小学校にタブレットが配布されているので、児童生徒が交流する際にDXの考え方を取り入れたということ。特別、文言としては載っていないが、職員研修をDXのテーマでやっていきたいということ。それから37ページの雇用、勤労者対策で合同就職セミナーもWebを活用した取り組みを進めて行く。 （事務局） 　３点目のご質問の公共交通について村タクシーの話をいただきました。意見対応はかなり慎重な言い回しにはなっている。伊賀市の市内においても公共交通空白地について、また行政バスを運用している所については、例えばデマンド方式のバスを入れていけないかといったこともやっているところで、村タクシーも視察に行かせていただき、話も聞かせていただいており良い制度だなと思っている。ただし、ここで慎重

	になっているのは、それぞれの地域の公共交通の形成計画等があり、笠置町、南山城村では加茂以東沿線地域公共交通網形成計画の中では、JR 関西本線を背骨にしてそこから放射状にバスが行くというような計画になっているので、慎重な言い回しというようなのは、やはり JR 含め、伊賀市においては他のバス事業者もあるのでそういったところと調整をしながら、ご意見については反映していければと思っているが、運輸局も中部運輸局、近畿運輸局で跨がっていて調整事項も多いので、今後慎重に検討させていただきたいという意味で回答させていただいている。 （委員） 　要望に留めたいが、医療の関係については救急搬送自体が既にあるということで、制度的には可能ということなので、24 時間の健康相談ダイヤルから救急搬送に繋がらないというご意見が前々回の会議でもあったと思うが、相談したが後は地元でとなると見放された感がある。そこは丁寧に繋いでいただくようにお願いしたい。 　DX に関しては、GIGA スクール構想もあるので、小中学校でもぜひとも進めていただきたいが、住民にとってこういう新しい社会ができるということを何かビジョンの中で、ビジョンには書き込めなくてもこの場では共有しながらそこに向けて、これは各部局に跨ることなので動機付け、意識付けをしっかりとしていただきたい。 　公共交通については、確かに色々調整すべき事項があると思う。最近の南山城村の議会でも質問が出ていて、住民の方にもかなり期待があるようにも思う。生活圏は最初の方の資料を見ても、南山城村の方たちは伊賀市に来られているということを実感していて、そういったことを踏まえるとここは非常に重要な要素だと思うし、住民の方にとってこのビジョンがどんなふうに自分たちの生活に役立っていくのかという観点でぜひとも検討を引き続き進めていただきたいと思う。 （会長） 　DX に関しては私も事務局との打ち合わせの時にはかなり期待をかけているということを言わせていただいたが、まだこれから試行錯誤していく分野なのでしっかりとは書けていないが、できることからしっかりとやっていただきたいというお願いはしておいた。特に委員の意見の背景にあるのは、伊賀市はそれなりに職員もしっかりとおられるので DX に対しての取り組み、特にこれはシステム化をしていくことが難しいので伊賀市はできると思うが、あとの町村は伊賀市にリードしていただきうまくそのシステムを一緒に使えるような、そんなことをしていただければこの定住自立圏構想の意味があると思うので、ぜひとも伊賀市がいろんな形でチャレンジをされる新しい仕

	組み、システムの中に、共同利用ということをしっかりとやっていただければというふうに希望している。例えば、先ほど研修の話が出たが生涯学習の分野でも、伊賀市で研修があった時に同時にリモートで配信していただき、南山城村、笠置町、山添村でも公民館等で同じ講座が受けられるようなことが、今からでも少し工夫をすればできる話かなと思うし、さらには我々が行っている会議そのものも、わざわざ伊賀市に集まらなくてもリモートでやっていただくともっと回数が増えるかもしれないし、あるいは職員同士の打ち合わせもリモート会議をどんどん進めていただくとお互いが行き来をしなくても済むのかなと思う。さらに、うちの大学でもリモートワークがこの２年間でかなり促進されたが、リモートワークができるということは人事交流で例えば南山城村の職員が伊賀市の仕事をリモートでやってみるとか、そういうような面白い仕掛けができないか。つまり、本籍はそれぞれの市町村に置きながら、兼務で一緒に仕事をするようなこともこれからチャレンジしていくと面白いなと思うので、この２年間で培ったリモート技術を様々なところで活用していただければと思っている。ただ、私もいろんな市町村の方とリモート会議をした時に案外困ってらっしゃるのは、どの部屋から入るのかという、リモート会議に入る部屋が中々ない。こういう大きい会議室を借り切って実は自分１人しかいないとか、もう少し場所をきちんと各市町村の役所の中に作っていただくというような非常に細かい工夫だが、そういうところがまだ準備できていないのかなと思うので、ぜひともリモート会議とかリモート研修がどんどんできるような形の整備もお互いやっていただく必要があるのかなと思う。 　公共交通の計画づくりは私も他市でお手伝いをすることがあるが、これはどうしてもその市町村単位で作ってしまう。一度、定住圏の中でどういうネットワークにすれば一番公共交通の使い勝手が良いのかを、お互いの計画を擦り合わせながら再検討していただくと、何か定住圏ならではの公共計画の運用計画ができる可能性が高いと私は思っている。例えば、先ほど関西本線の話があったが、 （委員） 　11 ページの医療関係の部分ですが、救急搬送件数が笠置町の場合、実績がゼロとか伊賀市応急診療所の患者数も実績ゼロになっているが、これは実際に患者がいなかったのか、病院側での救急搬送が受け入れられなかったのか、統計をとられたときの人数の把握の仕方というのはどのようになっているのか。 （事務局） 　伊賀市でもそうだし、おそらく笠置町でもそうだと思うが、住民の皆さんが、例え

	ば体調が悪くなって救急車を呼ばれた時に、救急隊員の方で受け入れ先の病院を探されるということがまず大前提としてある。おそらく笠置町から伊賀市、名張市の病院へは少し距離があるので、救急隊員が受け入れ先を探す時に、山城の方を探されて先にそちらで受け入れが可能ならそちらに搬送されるのが現実かと思うので、おそらくそちらで受け入れられているので実績としてはないのだろう。山添村が多いのはやはり、救急で隊員の方で受け入れ先を当たっていく時に伊賀、名張の病院が優先順位としては先に来るのかと思う。 （委員） 　相楽地域では救急医療の場合、基本的には山城、木津管轄の病院に搬送されると思う。ビジョンで消防関係や病院の受け入れ体制についての取り組みがあげられているが、圏域の取り組み方としてどういう形でやっていかれるのか。これは地域事情もあるし、その時の救急搬送の病院の実態もあると思う。これをあえてこの項目の中でしっかり圏域だから守りましょうという決まりは難しいのかと思う。 （会長） 　通勤についてもそうだったが、やはりそれぞれの市町村でどこと組んだ方が良いのかということはかなり温度差があると思う。うまく一番自分たちが使いやすいところを一緒に使っていただければと思うので、義務として皆が同じように使いなさいということでもない。そこはうまくお互いが使い合っていければ良いのではないかと思う。それから、次回までの検討で良いが、それぞれの市町村は救急搬送がどこに行っているのかは一定お分かりかと思うので、各市町村からどこへ搬送されているのか、その中で、伊賀市への搬送がどうゆう割合を占めているのかというデータがあれば、より分かりやすくなると思う。いずれかの段階でそういうデータも提供していただければと思う。 （委員） 　２点ある。まず１点目、デジタルトランスフォーメーションについてだが、今、伊賀市内の各地区市民センターでフリーWi-Fi がケーブルテレビの管轄だったと思うが導入されている。伊賀のケーブルテレビ管轄なので難しいかもしれないが、圏域内の公共施設等でこのフリーWi-Fi を、例えば定住自立圏のフリーWi-Fi 等としてあればICT の推進になっていくのではないか。２点目だが、この定住自立圏共生ビジョンに関連がないかもしれないが、実は私は最近伊賀市民になり、その時申請手続きが同じ圏

	域なのにとても不便だった。同じ圏域だが、印鑑証明を伊賀市で新しく作らないといけなかったりした。府県が違うし、市町村が違うので無理と言われた無理なのかもしれないが、手続き面でもう少し圏域内で自由に行き来できるような簡素化ができてきたら嬉しい。 （会長） 　先ほどご自身もおっしゃったように、府県域を越えるのでさらに難しい部分はあるかもしれないが、何かもう少しそういう手続きが簡便化できるということがあれば、ご検討いただきたい。 （委員） 　今、委員がおっしゃったように京都、三重、奈良ということで、非常に行政的な難しいところはあるが、定住自立圏という意味ではやっていく価値のあることではないかと私も感じた。 　８ページ、９ページの人口の推移、推計で、医療等を考える時に今、１人世帯が増えて非常に大きな問題になってきているが、山添村でも１人の方が急に亡くなられたといったことが発生している。やはり医療や介護ということを考える時に、人口の推移だけではなく、１人世帯というのは国勢調査で分かるので、高齢者だけでなく、若い方も男性も女性も結婚せず１人世帯がどんどん増えてきている時代になっているので、医療に関わるところで非常にそれは統計数値として利用できるものではないかと最近よく考えている。今後の課題かもしれないが、そういう数値も明確化していただき、行政サービスの中でそういった部分に手を当てるということもこれからは考えていかないといけない時代ではないかと思っている。 （事務局） 　ありがとうございます。国勢調査のデータを見ると、伊賀市でも人口は減っているが、逆に世帯は増えているというような状況からも、高齢者の一人暮らし等が増えているのだろうということは分かるので、今おっしゃっていただいた医療の分野だけでなく、地域活動を含めて考えていかないといけない部分だと思う。例えば、共助と言っても家族で暮らしている方が助け合えるといったこともある。様々な分野で核家族化や、一人暮らしが増えていくということは、取り組みとして進めていかないといけないことが見えてくると思うので、そういったデータを皆さんにもお示しさせてもらいながらやっていきたいと思う。

	（会長） 　先ほどのご意見は、おそらく第３期を作られる時に、今は８ページ、９ページに人口関係について総人口と年齢３区分人口は書いてあるわけだが、やはり施策に繋げるための基礎データとして家族構成の割合といったものもしっかりと書いておいた方が良いのではないかというご意見かと思う。もう一度、施策に結びつけるための基礎データがここにちゃんと載っているか再検討させていただき、３期ではそういった基礎データをしっかりと載せておくということでご検討いただければと思う。 （委員） 　私たちも計画作りをする中で、各自治体間の移動を割と意識している。人口や交流、関係人口というものも出てきている。一番、定住圏の中でどうゆう移動が行われているのか、もしくは定住圏外にどのような移動が行われているのかということは、施策の中で重要な位置を占めるので、次にご検討いただく時にそういった部分もあわせて整理いただけたら、具体の事業を組む時にやりやすいのではないかと思う。 （会長） 　この定住圏域の中でどう移動が行われているかということと、圏域外に出ている、圏域外から来ているということも把握できるデータを、また提供いただければと思う。 （事務局） 　まち・ひと・しごと創生総合戦略を各自治体で作っていて、伊賀市でも、人口の状況、人の流れ等を分析した上で人口減少にどう対応していくかについて考えているが、人口ビジョンの中でも特に人がどこへ出ていき、どこから入って来ているのかという流れを分析する際、この定住自立圏内の人の流れも把握している。そういったデータは各町村もお持ちだと思うので、共有し皆さんにも次回以降見ていただければと思う。 （委員） 　１人世帯については、本当に全国的な課題だと思う。これからは、DX でそうした課題を解決する時代だと思っている。例えば、関西文化学術研究都市にあるミツフジという企業はウェアラブル端末といって、シャツに心電図等で色んなことが情報として発信できるようなものを、福島県の被災地などで独居の世帯にお配りして、そのデータをとって何か急変があった時にすぐに通報できるような仕組みを作っておられる。

	あるいは、日本テレネットという企業はAIスピーカーを独居のお宅に配られて、そこはコールセンターも得意とされているので、AIスピーカーである程度のサービスを提供しながらいざとなればコールセンターに電話が繋がるということをされている。それからMaaS、モビリティ・アズ・ア・サービスということで、南山城村で実証実験をされた。そういう仕組みをうまくこの圏域に広げていくことで、高齢者の方が安心して日々暮らしていただけるような、そういうものを次のビジョンになるとは思うが、ぜひとも書き込めるような検討をしていただけたらと思う。それと、自治体間の移動というのは確かに移住ということもあろうかと思うが、日々の移動というものがあり、私もここに参加させていただき、恥ずかしいが初めて伊賀市に来て、休日にここを歩いてみると本当に良い町だと思った。圏域の方にすれば、多分南山城の方は買い物も医療も結構伊賀に来られるので、そういう意味でも、後追いになっても良いので、それをうまくDXで補完してくようなそんなビジョンにしていただけたらと思う。 （会長） 　伊賀市はデジタル戦略をこれから非常に頑張っていこうとされている。だから、そこのノウハウをうまく各市町村が共有できるようにしていただければと思う。かなり技術は進んできているので、そこを社会がどう受け入れていただけるか。技術を提供される企業と一緒に実証実験をしていただくことで、お互いウィンウィンの関係になると思うので、積極的に考えていただければと思う。 （委員） 　人口の統計調査で少子化がよく言われているが、中身をよく精査すると少子化というのは、結婚適齢期の人が結婚せず独身のため子供ができないということが多いのであって、本来結婚されている方が産んでくれる赤ちゃんの数はそれほど減っていないということが数字として出ているらしい。だから、僕らみたいに人生の経験者は若い人に結婚したら大変なこともあるけど良いこともあるよという、そういう啓発活動もしないと、若い人たち、特に女性は働く所はたくさんできて女性自身が自立されているので、なぜ結婚してわざわざ余分な仕事を増やさないといけないのかと思っているところもあるのではないかと私は勝手に思っている。だから、結婚することで、バラ色の人生ではないが、かわいい赤ちゃんができて人生が豊かになりますよというようなことを人生の経験者である先輩の人が言うことによって、少子化は若干でも防げるのではないか。そうしないと結局は老老介護になってしまい大変なことになっている。変な言い方だが、貧しい国の方では、生活は大変だが赤ちゃんはたくさん産んでくれ

	る。だけど医療が伴わないから亡くなってしまっている。平均寿命というのは、産まれている赤ちゃんの数は入ってない。だからアフリカで貧しい国では赤ちゃんはたくさん産まれているが、たくさん亡くなるからアフリカの人の平均寿命は延びてないだけで、長生きしている方もいる。やはりこういう大きな問題を考える時には、その社会を少しでも向きを変える努力を僕らがしないといけないのではないか。漠然とした意見だが、そんなことを思っている。 （会長） 　合計特殊出生率という１人の女性が何人子供を産むかという指標があるが、一番少ないのは東京都。一番多いのは沖縄県。実は地方部の方が子供をたくさん産んでいる。そういう意味では、大都市部はかなり厳しい状況に逆になっているのかなと思うので、もう少しゆったり暮らせる環境があれば、子どもも産んでくださるのかなと。もう一つの要因は地域で子供を見守ってくださる割合は、やはりコミュニティがしっかりした地域の方が強いと思う。そういう部分はうまくアピールしていただき、ここに住むと子供も安心して産み育てられるというアピールもデータとしていけるのではないかと思う。そのあたりうまく利用をしていただければ、先ほどのご意見も前向きにいけるのではないかと期待をしている。先ほどのご説明の中で、住民さん同士の交流の中で、今回は若年層の方の交流に一つ焦点をあてたいというのは実はそういう意味合いもある。出て行かれる若者が多い一方で、ここの地域に根付いていらっしゃる方々がしっかりおられて、その方々は地域作りのために頑張っていただいている。そういう頑張っていただいている方同士の交流がお互い刺激を与え合うと、より良い方向に進むのではないか。さらにそういうことが圏外に発信されると、ここの圏域の若い人たち元気だな、私も一緒に仲間に入りたいなということにも繋がっていくと思う。そのあたりの話も踏まえて、今回は若者層の方々の住民交流をしっかりとやらせていただきたいと思っている。 （委員） 　ビジョンではなく、目の前の問題のことを少し話させていただきたい。防災関係で、今年伊賀市の総合防災訓練を島ヶ原の地域で行った。大きな災害や地震を想定した場合、やはり伊賀市だけではなく、特に島ヶ原地域は南山城村と隣接しているので、伊賀市だけでやってもあまり機能しないのではないかと思う。そういうとことを含めた訓練、あるいは情報の共有や行動の動かし方を考えていただきたい。それから公共交通の問題で、１自治協の中で本当に公共交通は困っている。南山城村の方にも村タク

	シーをやられているので見学にも行かせていただき情報交換もさせてもらっている。自治協の中で小さいながらもプロジェクトチームを作って今現在検討しているが、中々ハードルが高いし、行政同士のそういう部分というのは話をしてもらいたい。現実問題、これは実現しようと思うと中々いろんな問題点がたくさんあるのでそう簡単にいくものではないということがよく分かってきた。特に財政問題が一番厳しいということが分かってきた。他の地域も見学に行ったりして研究はしているが、南山城村と特に伊賀市の中心部を繋いでいく方法を具体的に今考えているので、ぜひともお願いしたい。それから、医療や福祉等の施設も有効に活用していってほしいと思うし、お互いに圏域同士の伊賀市、町、村といろいろあると思うが広域的にしていただきたい。それからもう１つ、例えば医療関係でも、岡波病院や市民病院は中心的な病院なので利用されているが、島ヶ原から考えたら、例えばJRの関西本線を通じて１時間で木津まで行ける。木津の駅前には大きな病院がある。東に向いていけば四日市に１時間ほどで電車を使えば行ける。この圏域とは少し離れるが、そういうように医療や交通等、総合的な観点で考えていくことが必要ではないかと思う。次の機会にはそういう話も取り上げていただきたいと思う。 （会長） 　私はいろんな市町村の計画作りをお手伝いしていて、どうしてもそれぞれの市町村単位で考えるが、まさに今お話をお聞きしていると、住民にとっては自分の住んでいるところが中心で、そこから考えた時にまた別の視点が見えてくるのではないかというご指摘かと思う。そういった住民目線、地域目線でそれぞれの方々がより便利になるためにはどういうようなネットワークを組めば良いのかというところを再度検討いただきたい。島ヶ原は伊賀市に合併したが、条件として南山城ととてもよく似ていると思っている。そういう意味では島ヶ原の場合は、伊賀市に合併したので地域の問題はまちづくり協議会でしっかり考えてくださいというわけだが、南山城はまだ村として残っているので、役場が考えてくれる。そこはやはり権限あるいは財政面となると地域のまち協では限界があるので、そこをうまくお互いをフォローできるような体制をぜひ持っていただければと思っています。 （副会長） 　４点お願いしたい。まず49ページ。事業NO.1621の本文3行目、「お互いのMC教育の充実」でMCにアスタリスクマークがある。ここの部分はおそらく説明が抜けているのではないか。追記をお願いしたい。それから41ページ。ここは分かりにくいので説

	明をお願いしたいのだが、41 ページの地域ブランド創造促進事業の中の期待される効果の最終行、「また体験教室を行うことにより、伝統的工芸品を守り育成することができます。」とあり、「伝統的工芸品を守り」は分かるが、育成するとは何を育成するのか不明で少し分かりづらい。補足が必要かと思う。それから 35 ページ。ここからは提案だが、図書館運営で圏域内の図書室、図書館の利用カードを統一できないか。そんなに難しいことではないと思う。ナンバリングだけ山添村の図書室では何番からとか、笠置町の図書室では何番からとかして、それをシステムで同じように管理していければ使う側にとってはとても便利だと思う。それから見える化として、このビジョンを住民みんなに行き渡らせるということが必要だと思う。施設の電話番号や医療関係の電話番号、また子育てセンターはどこにあるとか支援センターがどこにあるとかが圏域内の地図にプラスされる等、どういう方法でも良いのでそういうことが住民の手元に渡るような、もっと身近に感じられるようなものが必要ではないかと思う。 （会長） 　私も同感で、普段の生活の中でこのビジョンを常に感じられる工夫が何かできないかと思う。南山城村の道の駅では、自動販売機等で村のお茶を売っている。それが伊賀市でも常に目に触れるところに置いてあるとか、あるいは伊賀市にも道の駅がありますが、南山城村コーナー、山添村コーナー、笠置町コーナーと作らなくても、定住圏域の名産品がいつも置いてあるコーナーとかそういう私達が生活するところでビジョンを意識する工夫というのはそんなに無理しなくても考えられることではないかと思うので何かそのあたりは工夫をお願いできたらと思う。 （事務局） 　先ほど言っていただいていた MC 教育については説明が欲しいと思うので、ここは説明書きを入れたいと思う。地域ブランド創造促進事業の期待される効果の記載は、いわゆる後継者育成の話で担い手が不足しているので後継者育成の話を表現したいのかと思うので、これも担当部局に確認をして文章を変更したいと思う。図書館運営についてはデジタルでこれからどうしていくかということもあるし、現状、昔の図書カードと違い電算化されているものを伊賀市の場合でも使っているので、そこはどのように応用できるのかは分からないが、今のご意見については教育部会にも投げかける。伊賀市の図書館自体もこれから新しい図書館を作ろうとしているので、その中でもどのようなシステムを入れていくのかというところでの課題になると思う。それから先ほどから会長からもお話ありましたように、見える化の話のついてはこの定住自立圏

	構想でどういった取り組みをしているのかということが中々住民レベルで見えづらいというということで、このビジョンを策定した５年前からもずっと言われていた。このコロナ禍で圏域証を作った話も、全国ネットのニュースでも取り上げていただき、当時の三重県知事も国のコロナの関係の部会でも特徴的な取り組みということで取り上げていただいたりした。ニュースでも反響があり、コロナ感染が拡大している時に、都道府県の「県」境を越えないような自粛が叫ばれる中、圏域の「圏」を使ったということはすごい考えだということを一般の方もニュースのコメントに多く載せていただき、やっていて認められたことは嬉しかった。何か定住自立圏で連携して自治体間の行政間でやれることもあると思うが、住民の皆さんの側でも何か一体感を図ってもらえるような取り組みというものを広げていきたいなと思っている。この後の事項でも、圏域証を作った時に課題だった話でロゴマークをこれから提案させていただきたいと思っているので以降の項でもよろしくお願いしたい。 （委員） 　先ほど会長が言っていた道の駅について、商売が絡むためハードルはあると思うが、例えば山添村では、ふるさと納税でそうめんを出している。南山城の道の駅は抹茶のソフトクリームが関西で一番売れていて、全国的にも誰もが知っているようなブランドになっている。例えばかぶらない商品、お茶なんかはどうしてもかぶって難しいと思うが、本来ならそこへ行かないと中々買えない商品でもそういう多くの人が立ち寄りそうな場所に置いておくと、簡単に売れてしまう。要は買う人は買いやすい所で買うわけだから、バッティングしないような商品は各行政の人にもお世話かけて、そういうことをやったらどうかというようなミーティング等をできたら非常に良い。 　副会長がおっしゃった見える化については非常に大事なことであって、例えば、この定住自立圏について携帯でボタンを押せばホームが出て自分が見たいところが見られるようにする。そうすると、伊賀市のことも南山城のことも笠置のことも山添のこともすぐに検索できる。電話帳で探すことを思うと、何回かボタンを押すだけ。そんなこともこれからリンクを貼ったりしてやっていけたら、アナログのポスターももっとデジタル化できた中身が分かりやすいものに一足飛びに進むのではないか。最近は高齢の方もらくらくスマホ等があり大方の方はそういったものを持っているので、非常に見える化はやりやすいのではないかと思う。 （会長） 　ふるさと納税の話は 61 ページに記載がある。補足説明はあるか。

（事務局）

ふるさと納税の仕組みを使って、今後第２期ビジョンの５年間で、連携した取り組みを進められないか考えている。事業者さんが返礼品を共同開発というところまでいければすごいと思うが、このふるさと納税制度は国の制度で、自治体間連携があまり想定できていないといいますか、しづらい。姉妹都市の返礼品を返礼品にしてはいけない等いろんなハードルがあったりするのと、税関係の制度をクリアしないといけないので、ハードルが高いと思いつつ、ただ互いの魅力を総合的に発信するとか、そういったことは全然できることかと思うので、無理のない範囲でやっていけたらと思っている。

（会長）

ふるさと納税も定住自立圏もいずれも総務省がやれといっている話なので、そのあたりご相談いただき、全国に先駆けて圏域でのふるさと納税ができるような可能性が出てきたら良いなと思うので、総務省にご相談いただいたらと思う。

（会長）

それではたくさんご意見を賜った。ビジョンに反映できるところもいくつかあったので、そのあたりはまた事務局の方で反映をさせていただければと思う。さらに、より具体的な事業のイメージもいただいたので、それは運用しながら、一つ一つ実現できるものは実現していただけるかなと思う。それえは、これから５年間はこのビジョンに基づいて我々も頑張らせていただきたいと思うので、皆さま方も一緒に取り組んでいただければと思う。

（２）ロゴマーク（案）について

（会長）

それではもう一つ、先ほどもご意見ありました見える化の一つだと思う。ロゴマーク案についてお諮りをさせていただきたいと思う。まずは事務局から説明いただければと思うので、よろしくお願いします。

（事務局）

★資料２の説明

	（会長） 　ありがとうございます。１か２かではなく、両方認めていただき、これの組み合わせで色々バリエーションを増やしていきたいなというご提案です。なにか質問ご意見があればお願いします。 （委員） 　これは参加しているエリアをマークにしたのだが、少し惜しいなと思ったのが、よく見るとこれは犬や猫の肉球によく似ている。だから、これはもう少し工夫して猫でも犬でも良いが肉球みたいな形にしたマークの方が明らかにみんな何かな、かわいいなと思ってくれると思う。だから少し配列を変えると簡単にできると思うので、きっとこっちの方が子供でも何かなと思って見てくれると私はこれを見てすぐ思った。 （会長） 　あまりにも地形そのものがベースになっているので、少しそれぞれの市町村の面積の大きさも無視して、デザイン的な工夫が出来ないかというご意見かと思う。これは検討の余地はあるのか。 （事務局） 　持ち帰って検討したい。 （委員） 　かわいいと思う。ただ、裏面の例３のパターン３、４の「水と歴史でつながる圏域」は少しかわいさが半減する。字体も変わってしまうので、そこだけ少し使っていただく時に工夫がいる。パターン３、４は伊賀城和の字体で「水と歴史でつながる圏域」とすれば雰囲気は少し変わるのかなと思うので、そこだけ少しご検討いただければなと思う。とても色もかわいいと思う。 （会長） 　委員の年代からすると一番下のパターンはあまりかわいくないのかなということかと思う。またご検討いただければと思う。 （委員） 　これがロゴマークに見えないと言ったら失礼だが、ぼやけているというか、何を意

	味しているのか。地理、場所の大きさを表していると言われれば分かるが、やはり知らない方が見ても定住自立圏のロゴマークだということがもう少しリアルに分かっても良いのではないかと思う。先ほどあった肉球でも良い。ぼやけているというか、もう少しはっきりしたものがあれば、もっと特徴が掴めるのではないかなと思った。色合いはかわいいと思う。ただ、全て丸にしてしまうというものがもう少し幾何学的にするとか、そういうことも出来たら面白いのではないかなと思った。 （委員） 　これはどんなところに使われる予定のものか。 （事務局） 　これを作りたいとなったのは、ビジョン懇談会でも意見が出ていたかと思うが、圏域証を作る時にこの圏域証をどうしようかということがすごく苦労したので、そんな時にもこういうロゴがあれば、圏域証が作りやすかったという反省から出てきた。政策の発生源はそういったところだ。これをどんなときに活用出来るかというと、例えばイベントのポスターや、先日の島ヶ原の竹の灯りのイベントのように定住自立圏後援のイベントという時にもこういうロゴが使えるのではないか等、様々な所で活用できるのかなと思う。ビジョンの表紙にロゴが載せられたり等いろんな活用があると思う。 （会長） 　逆に色々なところで使っていただきたいということ。住民さんのところでもうまく活用していただきたい。先ほどの道の駅におかれる特産品のところにもシールとして貼っていただくとか、印刷する時にも既にこういうものが印刷してあるとか、いろんな使い方が多分これから出てくると思う。例えば先ほど図書館のカードの話が出た。そこにロゴとして載っているとか、どんどん使っていただくということが目的なので、逆に皆さんからこういうところにも使えるよというご提案をいただいたらと思う。 （会長） 　他いかがか。よろしいか。 　ここで決めるということは中々難しいが、基本は今日ご提案いただいたものを基本にして、また今日のご意見も賜りながら修正できる部分は修正していただきながら、協議会の方で最終的には決定をいただければと思う。決定次第、皆さんにもお知らせ

	してどんどんご活用いただければというふうに思うのでお願いしたいと思いますし、ステッカー等もどんどんいろんなところへ使えるような形で配布していただくということも、予算がかかる話ではあるがお知らせするという意味も込めていろんなところで使えるようなステッカー等も作成いただいたらと期待している。 （会長） 　よろしいか。それでは予定していた案件はこれで全て終了させていただくが、振り返りも含めて何か皆さんの方からはあるか。 （委員） 　ステッカーという話が会長から出たが、圏域証がA4の紙1枚なので、もしよかったら、車等で貼り付けられるようなマグネット式のものがあればとても助かる。もう少し小さくても良いので検討いただきたい。 （事務局） 　ありがとうございます。実はお認めいただいてこのロゴマークを作れたら、マグネットではなく何回も貼れるタイプのシールがあるので、そんなものも活用しながらＰＲしていきたいというふうに思っている。 （委員） 　私事だが、今回島ヶ原のイベントで絆づくりの補助金をいただいたが、今回の補助金が２つの自治会との連携でないといただけないということで、南山城村と田山区の皆さんと一緒にさせていただいた初めてのことだったが、やってみて思ったのが本当に今まで知らない方たちとの交流が本当に良かったなということと、この定住自立圏の協議会の後援をいただき、それから南山城村の後援もいただきということもあり、本当にいろんな意味で来ていただけた。当日がすごい寒波の日で大変だったので、残念ながら来られない方もいたと思うが、大変だったからなおさら皆さんの一致団結とも感じられた。いつも思うが、イベントは大変だが、今回は満月の中に灯りが灯されたので本当に感動したのだが、感動することがすごくホルモンバランスに良く、ドーパミンが出て元気になれる。コロナの中の自粛ということもいわれたが、そういう感動することやみんなで連携し合う力が本当に得られた。おかげで知らない自治会との連携ができたということは本当に良かったなと思う。ありがとうございました。

	（会長） 　そういう楽しい行事はできるだけみんなで共有しながら、これからもやっていければなと思うし、今日は話題としてご提供いただいたが、案外役所の方は自分たちがやっていることのデータは集められるが、住民同士の交流がどれだけ進んでいるかというデータが中々集めづらいので、できたら今日のような報告をそれぞれやっていただくことによって、住民どうしでもこういうふうに圏域で交流できているということの証拠がちゃんと残っていくので、また今後もどんどんご提供いただければと思う。 （会長） 　よろしいか。それではこれで議事の方全て終了させていただく。どうもありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しするのでよろしくお願いします。 **４．その他** （事務局） 　会長様、大変おつかれさまでした。 　それでは、最後に４．その他でございますが、 　会議全体を通して委員の皆様から、何かご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。 　なければ、事務局から何点か報告事項があります。 （事務局） 　今後のスケジュールについて報告させてもらいます。年があけましたら、今回皆さんにご審議いただきましたこの新しい共生ビジョンについて、１月 21 日に開催する各自治体の首長さんに集まっていただく会議で最終的に決定いただいき、その後、市民の皆さんに公表という形になります。それぞれの自治体の議会の説明が１月 21 日の会議後になるので、２月か３月になるかと思うのですが、議会説明をさせていただいた後、市民の皆さんに公表するということと、総務省にも報告して提出させてもらう。そのような手続きを踏んで、今年度中には新しい共生ビジョンをまとめていきたいと思っています。それから、委員の皆さんには２年間お世話になり、残すところ任期も３ヶ月はございますけれども、予定している会議としては最後になるのかなということで、改めてお礼申し上げたいと思います。また、次年度以降も引き続きビジョン懇談会でお世話をおかけするかと思いますが、新しくできたビジョンに基づき連携を進めていく取り組みをしっかり進行管理いただきながら進めていきたいと思いますのでよろしくお願いしたいと思います。 （事務局）

	それでは会議の終了に際しまして部長の藤山から一言お礼を申し上げます。 （企画振興部長） 本日は年末の大変お忙しいところ第２期の共生ビジョンの最終案、またロゴマークにつきましてご協議いただきまして本当にありがとうございました。委員の皆様の任期が本年度末、来年の令和４年３月 31 日までとなっておりまして、今後、懇談会の開催を予定しておりませんことから、この場をお借りいたしましてお礼のご挨拶をさせていただきたいと思います。委員の皆様には令和２年４月１日から令和４年３月 31 日までの２年間を任期といたしまして、共生ビジョンの策定や変更、進行管理についてご協議をいただきました。この間、３回の懇談会を開催させていただきまして、交代された委員の方も含めまして様々な角度からご意見をいただくなど、活発なご協議をいただいたことにお礼を申し上げます。また久会長様、大仲副会長様におかれましては、懇談会の議事の進行や意見をまとめるお立場としてお力添えをいただきましたことに、重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございました。伊賀山城南東大和定住自立圏は全国でも類まれな３府県をまたぐ圏域でございます。人口減少社会や新型コロナウイルス感染症の影響もある中でも持続可能な行政運営、また地域の皆さんによる運営によりまして、圏域に暮らす全ての人が幸せを実感できるよう、またこの圏域への定住を促進するために今後も形成する市町村の魅力を生かし連携協力のもと、今日まで委員の皆様からいただいた貴重なご意見をもとに様々な事業に取り組んでいきたいというふうに考えております。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、また新型コロナウイルス感染症の影響もある中、懇談会委員として、ご就任いただきましたことに改めてお礼を申し上げます。今後もこの共生ビジョンの取り組みにご理解とご協力をいただきますとともに、委員の皆様のご健康とますますのご活躍をご祈念申し上げまして、簡単ではございますが、お礼の言葉とさせていただきます。本当にどうもありがとうございました。 （事務局） これをもちまして、本日の会議を終了させていただきます。ありがとうございました。 －　11：40 終了　－